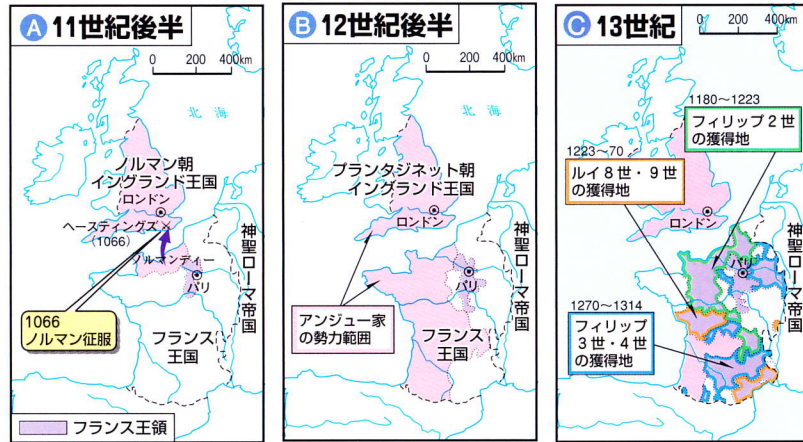
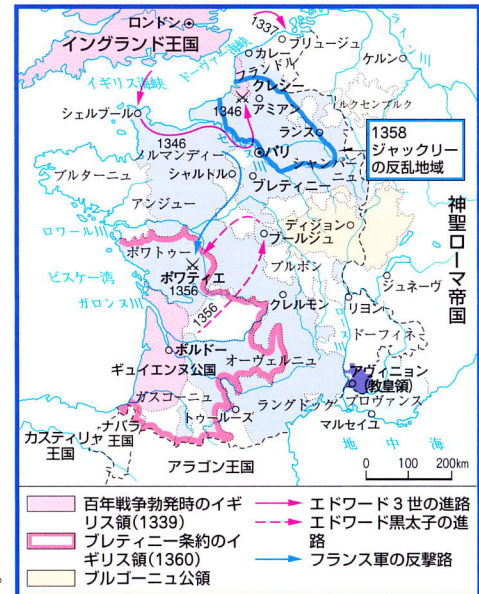


1 百年戦争前の英仏関係

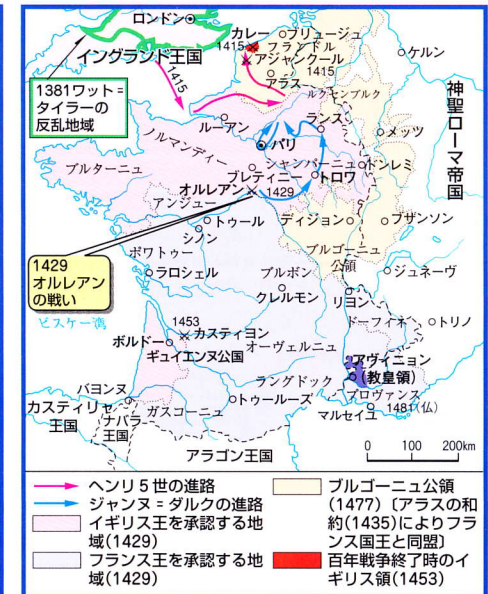


解説 ノルマンディー公ウィリアムとアンジュー伯アンリは、フランス王の封建的家臣でありながらイギリス王となったため、イギリス王がフランス国内に広大な領地を持つことになった。そこで、フランスの中央集権化の過程では、国内のイギリス王の領地を奪い、勢力を駆逐することが最大の課題となった。

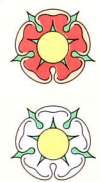
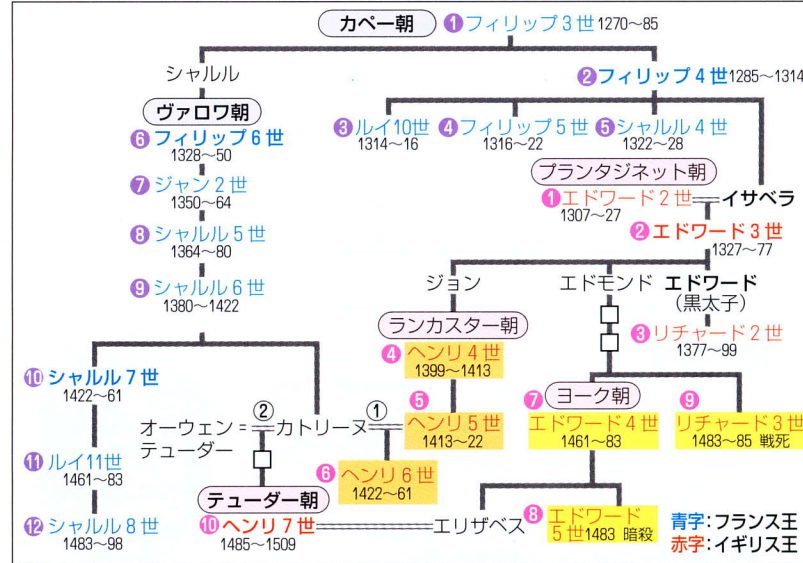
2 百年戦争前期のフランス(1339~60)



3 百年戦争後期のフランス(1360~1453)



4 英仏王家の関係系図(百年戦争・ばら戦争)



チューダー=ローズ

ランカスター家の紋章は赤バラ、ヨーク家の紋章は白バラであったので、両家の争いをばら戦争と呼ぶ。結末はランカスター家側のヘンリ7世(ヘンリ=チューダー)がヨーク家の娘エリザベスを迎えてチューダー朝を開くことで解決した。新しく作られた、赤バラ・白バラを組み合わせた紋章を、チューダー=ローズといい、現在もイギリス王家の紋章となっている。



フランス軍は弩を使い、矢を込めるのに時間がかった。

イギリス軍は長弓を使い、1分間に6回程度連射できた。

クレシーの戦い 1346年8月、エドワード3世とその子エドワード黒太子の率いるイギリス軍が、フィリップ6世率いるフランス軍を破った。歩兵隊に長弓を使用させたことがイギリス軍の勝因であった。

ジャンヌ=ダルクに対する評価の変遷

1431 ルーアンで宗教裁判。魔女とされ火刑  
 ↓  
 1456 復権訴訟により無罪。名誉回復  
 ↓  
 19c末(帝国主義時代) 英雄として像が各地に建造  
 ↓  
 1920 ローマ=カトリック教会から聖女とされる

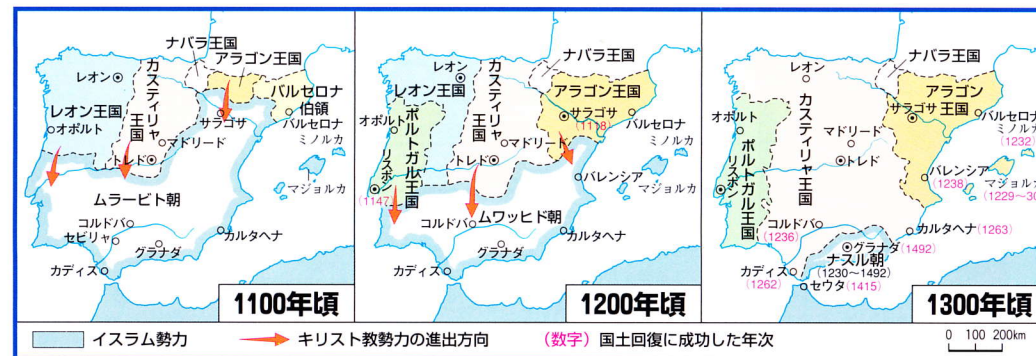


## 5 中世ヨーロッパ諸国家の変遷

イギリス (P113 2 図, P139 1 年)	フランス (P112 1 年, P141 1 年)	世紀	イタリア (P112 1 年, P142 3 年)	ドイツ (P112 1 年, P142 3 年)
829 エグバート(エグベルト)七王国統一 878 アルフレッド大王 デーン人撃退 <b>ヴァイキングの侵入激化</b>	843 ヴェルダン条約(西フランク王国成立) 870 メルセン条約 911 セーヌ河口にノルマンディー公国成立 (P113 1 図) 987 カロリング朝断絶 ユーグ=カペー カペー朝を創設	10	843 ヴェルダン条約 870 メルセン条約 1054 東西教会分離	843 ヴェルダン条約(東フランク王国成立) 870 メルセン条約 911 カロリング朝断絶 <b>オットー1世</b> (皇帝位962~973) 955 レヒフェルトの戦い(マジャール人撃退) 962 教皇ヨハネス12世より帝冠を受け <b>神聖ローマ帝国</b> 成立 ○イタリア政策始まる
1016 デーン王 クヌート デーン朝創設 1042 アングロ=サクソン朝の復活 1066 ノルマン征服によりウィリアム1世ノルマン朝を創設	1095 クレルモン公会議 <b>十字軍遠征開始 (1096~)</b>	11	1077 カノッサの屈辱	○イタリア政策始まる <b>聖職叙任権闘争起こる</b>
1154 アンジュー伯 アンリ 英王として即位(ヘンリ2世) <b>ジョン王</b> (位1199~1216) ○仏国内の王領を喪失 1209 カンタベリー大司教任職で教皇より破門 1215 <b>大憲章(マグナ=カルタ)</b> (P241 1 図) 1265 ヘンリ3世 シモン=ド=モンフォールの議会を承認 1295 エドワード1世 模範議会を召集(貴族・聖職者に加え、各州から2人ずつの騎士、各都市から2人ずつの市民を出席させた) 1327 エドワード3世 即位 仏王位の継承権を主張	ベ 1189 <b>フィリップ2世</b> (位1180~1223) 1189 第3回十字軍に参加 ○仏国内の英領を奪回、王権拡大 1209 アルビジヨワ十字軍(~29) 1229 <b>ルイ9世</b> アルビジヨワ派を撲滅 1248 <b>ルイ9世</b> 第6回十字軍に出発 1270 <b>ルイ9世</b> 第7回十字軍に出発 <b>フィリップ4世</b> (位1285~1314) 1302 三部会を召集 1303 <b>アナーニ事件</b> 1309 <b>教皇のバビロン捕囚</b> (~1377) 1328 フィリップ6世 即位 ヴァロワ朝始まる	12	1130 両シチリア王国成立 (P113 1 図) ○ <b>教皇党(ゲルフ)</b> と <b>皇帝党(ギベリン)</b> の対立 ○都市共和国 1282 「シチリアの晩鐘」(反仏大反乱) ○イタリア諸都市の繁栄 1303 <b>アナーニ事件</b> 1309 <b>教皇のバビロン捕囚</b> (~77) ○ルネサンス始まる	1122 <b>ヴォルムス協約</b> ○ <b>東方植民の推進</b> 1189 フリードリヒ1世 イタリア遠征とともに第3回十字軍に参加 1241 <b>ワールシュタットの戦い</b> ハンザ同盟結成 1256(54) <b>大空位時代</b> 始まる(~1273) 1273 ハプスブルク家の一時支配 1291 <b>スイス契約同盟</b> 成立 スイス3州の独立闘争起こる
<b>百年戦争 (1339~1453)</b>				
<b>黒死病(ペスト)の全ヨーロッパへの拡大 (1347~51)</b>				
1378 ウィクリフの教会批判 1381 <b>ワット=タイラーの乱</b> 1453 百年戦争に敗北 1455 <b>ばら戦争</b> 起こる(~1485) 1485 <b>ヘンリ7世</b> テューダー朝創設	1358 <b>ジャックリー(の乱)</b> 1422 <b>シャルル7世</b> 即位(~61) 財務官ジャック=クール 1453 百年戦争に勝利 ○諸侯・騎士の没落、国王による中央集権化進展	13	1378 <b>教会大分裂</b> (~1417)	1356 <b>カール4世</b> 金印勅書を発布 ○領邦の形成 1403 フスの教会批判 1414 <b>コンスタンツ公会議</b> (~18) 1438 <b>ハプスブルク朝</b> の帝位の世襲化 1499 <b>スイスの事実上の独立</b>
1455 <b>ばら戦争</b> 起こる(~1485) 1485 <b>ヘンリ7世</b> テューダー朝創設	○諸侯・騎士の没落、国王による中央集権化進展	14	○ルネサンス始まる	1356 <b>カール4世</b> 金印勅書を発布 ○領邦の形成 1403 フスの教会批判 1414 <b>コンスタンツ公会議</b> (~18) 1438 <b>ハプスブルク朝</b> の帝位の世襲化 1499 <b>スイスの事実上の独立</b>
1455 <b>ばら戦争</b> 起こる(~1485) 1485 <b>ヘンリ7世</b> テューダー朝創設	○諸侯・騎士の没落、国王による中央集権化進展	15	○ルネサンス始まる	1356 <b>カール4世</b> 金印勅書を発布 ○領邦の形成 1403 フスの教会批判 1414 <b>コンスタンツ公会議</b> (~18) 1438 <b>ハプスブルク朝</b> の帝位の世襲化 1499 <b>スイスの事実上の独立</b>

世紀	イベリア半島
9	後ウマイヤ朝(西カリフ国)
10	レオン王国 1031 ムラービト朝 1056 ムラービト朝 1130 1147 ムワッヒド朝 1230 1269 アラゴン王国 1479 1492 ナスル朝
11	カステイリヤ王国
12	カステイリヤ王国
13	カステイリヤ王国
14	カステイリヤ王国
15	カステイリヤ王国
16	カステイリヤ王国 1580 <b>スペイン王国</b>

## 6 国土回復運動(レコンキスタ, 再征服運動) (P101 6 地)



## 7 ドイツの分裂



1 解説 1356年、皇帝カール4世が発布した金印勅書で、皇帝は7人の選帝侯の多数決により決まるとされた。また、選帝侯に各自の領内における最高主権を認めたので、大諸侯の権力が確立され、事実上、領邦の独立を承認したものとなった。結局、皇帝権は弱体化し、国内は300の領邦国家の分裂状態が続いた。

## 8 スイスの独立

13c ハプスブルク家(ハプス)の支配本格化(交通の要衝で関税収入確保が目的)  
1291~ ウリ・シュヴィッツ・ウンターヴァルデン3州の同盟による独立闘争  
1315 モルガルテンの戦いで勝利  
1499 ドルナッハの戦いで大勝利  
スイス連邦の事実上の独立達成  
1523~ ツヴィングリの宗教改革(チューリヒ)  
1541~ カルヴァンの宗教改革(ジュネーヴ)  
1648 ウェストファリア条約で正式独立  
1815 ウィーン会議で永世中立国となる

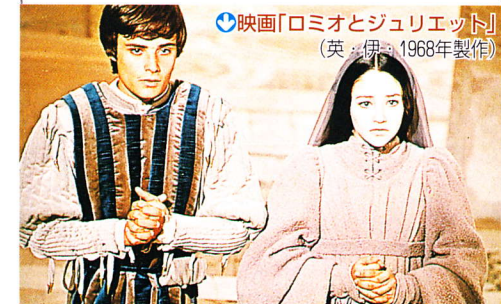


伝説的英雄ヴィルヘルム=テル

## 『ロミオとジュリエット』にみるイタリアの分裂 — ギベリンとゲルフ —

シェークスピアの悲劇『ロミオとジュリエット』は、敵同士の家生まれた男女の悲しい恋の物語であるが、ギベリンとゲルフに分かれて敵対した2つの名家をモデルにしている。

ギベリンは「皇帝党」で、ドイツ皇帝のイタリア政策を支持。封建領主・小都市・大商人に対抗する新興市民が属した。ゲルフは「教皇党」で、皇帝のイタリア干渉に反対。封建領主の圧力に対抗する有力都市・大商人・小貴族が属した。



## 1 ヨーロッパ中世の文化

特色		●キリスト教を基調とする文化 ●ラテン語による学術交流 ●神学の隆盛(「哲学は神学の婢」)		
		神学者	経歴	要点
神学	教父哲学	アウグスティヌス (354~430)	北アフリカ ヒッポの司教	異教徒(ヴァンダル族)の攻撃に対し、『神の国』を著す。地上の国から永遠なる神の国への道を説く。他に『告白録』(マニ教からの回心)
		アルクイン (735?~804)	イギリス 神学者	カロリング=ルネサンスの中心人物。カール大帝によりアーヘンの宮廷学校に招聘。古典学とキリスト教を融合
		アンセルムス (1033~1109)	イギリス カンタベリ大司教	「スコラ哲学の父」。信仰は理性に優先する(実在論)
		アベラール (1079~1142)	フランス 騎士	理性が信仰に優先する(唯名論)。愛人工ロイズとの書簡で有名
		ロジャー=ベーコン (1214?~94)	イギリス スコラ学者	経験を重視。近代自然科学方法論への道を開く。自然科学研究もキリスト教発展のため
		トマス=アキナス (1225?~74)	ドミニコ派 道士	スコラ哲学の大成者。実在論と唯名論の普遍論争を収拾。キリスト教とアリストテレス哲学とを融合。信仰と理性の統一。『哲学大全』『神学大全』
	ウィリアム=オッカム (1290?~1349?)	イギリス 神学者	宗教上の信仰は、知識によって解明できない。理性と信仰とを区別(唯名論)	
文学	騎士道物語	『ローランの歌』(仏)…フランク王カール大帝のスペイン遠征の際、殿軍を率いてイスラム軍と戦った勇士ローランの奮戦と死のありさまをうたったもの。12世紀初め頃完成 『アーサー王物語』(英)…ケルト人の英雄として半伝説的人物のアーサー王と円卓の騎士の武勇を物語ったもの。12世紀完成		
	民族的叙事詩	『ニーベルンゲンの歌』(独)…ニーベルンゲンの宝をめぐる英雄ジークフリートの活躍と、彼の暗殺後の妻クリームヒルトの報復物語。13世紀完成 『エッダ』(北欧)…古代アイスランドの神話や英雄伝説を集めた。13世紀頃完成		

### 映画「薔薇の名前」にみる中世の神学

中世北イタリアの修道院で起こった連続殺人事件をめぐるミステリー「薔薇の名前」。この作品では、フランチェスコ派の修道士ウィリアムらが真犯人の司教ホルヘを追い詰める。ホルヘの殺人の動機は、修道院の図書館に収蔵された異端の禁書であるアリストテレスの著作を読んだ者の口封じであった。このことは、当時古典文献の保存と翻訳を重要な任務としながらも、カトリック教義を否定する禁書を封じ込めねばならなかった修道士たちの姿をよく描いている。



●映画「薔薇の名前」  
仏・独・伊・1986年製作  
主演ジョーン=コネリー

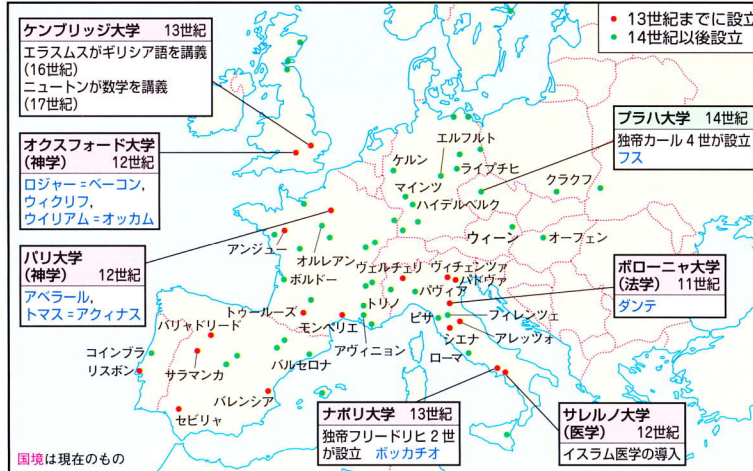
●吟遊詩人 トゥルバドール(南仏)、ミンネジンガー(独)と呼ばれ、11~13世紀頃、騎士的恋愛を叙情詩にたくして歌い、諸侯の宮廷を遍歴した。



●「サンタ=マリヤ叙事詩」の挿絵

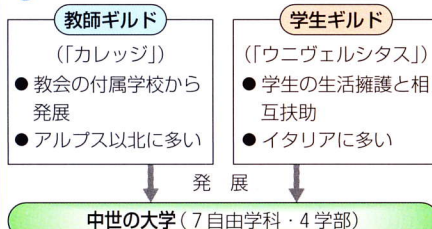
## 中世の大学

### A 各地の大学 大学名(中心学部)・出身者(人名)・特色



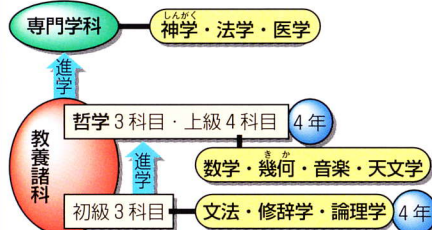
●解説 大学は修道士や官僚の育成をめざして設立されたが、十字軍遠征によりギリシア・イスラムなどの高度な知識・学術の流入が促進され、専門性の高い研究機関へと発展した。  
共通語であるラテン語を修めた学生は、優れた学者を求めて諸国を遍歴した。

### B 大学の起源



### C 中世の大学の特色

- 資格 年齢・学歴など入学制限はない
- 学生 一部のエリート層(聖職者・領主の子弟)
- 期間 修業年限はない
- 講義 ラテン語を使用
- 学問の自由 教会や君主の干渉で研究の自由はない
- カリキュラム (オックスフォード・ケンブリッジ大学の場合)



●大学の授業風景 教壇の上から先生が講義し、学生はテキストを開いて聴くという形式や、居眠りや私語をする学生がいることも、今日の日本の大学と似ている。先生や学生の聖職者のような長い衣服は、大学の起源が教会や修道院の付属施設であったなごりである。

### ●ケンブリッジ大学(イギリス)





バシリカ式

④ **サンタ=マリア=マジョーレ聖堂**(ローマ) バシリカはギリシア語で王の広間の意。壮麗なイオニア式の列柱がギリシア建築の伝統をしる。⑤ **サン=マルコ聖堂**(イ ヴェネツィア) 5つの円屋根が正十字に並び、正面は対称形の連続半円形アーチ。アレクサンドリアから移された聖人マルコの遺骸を祀る。堂内を飾る金地のモザイク壁画は優品とされる。



ビザンツ式



ロマネスク式

尖頭アーチ



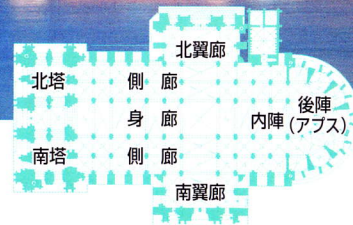
ゴシック式

ステンドグラス

④ **ランス大聖堂の内部**(仏 ランス) 尖頭アーチの導入によって大きな窓が可能となり、ステンドグラス越しに柔らかな彩色光が室内に注ぐ。荘厳なグレゴリオ聖歌が聞こえてくるようである。⑤ **ピサ大聖堂**(イ ピサ) 十字架の形をした平面構成が特徴的。ローマ式列柱に半円形アーチを組み合わせて大きな空間を作り出した。斜塔はガリレイが物体落下の実験をした場とされ有名。



1248年起工/1560年中断/1842~80年完成  
ドイツ・ケルン市 ライン河畔  
全長144m 天井43.6m 正面の塔157m



④ **ケルン大聖堂**(独 ケルン) ライン河畔に立つ西欧最大のゴシック式聖堂。天への憧れを感じさせる高さ157mの2つの尖塔を特色とする。

## 2 中世の建築

様式・時期・地域	特 色	代 表 例
バシリカ式 4~8世紀(南欧)	長方形の身廊と側廊	サンタ=マリア=マジョーレ聖堂(イ ローマ)
ビザンツ式 4~8世紀 (東欧中心)	正十字の平面形と円屋根。 モザイク壁画が特色	セント=ソフィア聖堂(トルコ イスタンブル) (P116写) サン=ヴィターレ聖堂(イ ラヴェンナ) サン=マルコ聖堂(イ ヴェネツィア)
ロマネスク式 11~12世紀 (南欧中心)	ローマ風の半円形アーチ。 短く太い柱。重厚な感じ	ピサ大聖堂(イ) ヴォルムス大聖堂(独) メインツ大聖堂(独) シュバイエル大聖堂(独) クリュニー修道院(仏) ヴェズレー大聖堂(仏)
ゴシック式 13~14世紀 (西・北欧中心)	高い尖塔、尖頭アーチ、 大きな窓にステンドグラス、 細い柱、崇高な感じ	ケルン大聖堂(独) カンタベリ大聖堂(英) ノートルダム大聖堂(パリ) アミアン大聖堂(仏) サン=ドニ修道院(仏) ランス大聖堂(仏) シャルトル大聖堂(仏)

ピサ大聖堂  
この建物の中でガリレイが振り子の等時性を発見したという